

アルファルファ新品種「SBA9801」の紹介

アルファルファは嗜好性と栄養価が高く、高泌乳牛の飼養において欠くことのできない草種の一つですが、自給栽培よりも輸入飼料の割合が高いのが現状です。栽培が難しいことや永続性が劣ることが主な理由と思われていますが、北海道農業研究センターが中心となってアルファルファの試験研究が進められており、栽培技術や品種の能力が向上していることから、今後のアルファルファの更なる普及を期待したいところです。

(北海道農業研究センターのアルファルファHP：
<http://cryo.naro.affrc.go.jp/mmr/mmrhp/team3/altop-set.html>)

当社ではこれまで海外種苗会社からの導入品種(パートス、ユーバー)を販売してきましたが、平成17年に当社育成第1号の「SBA9801」が北海道優良品種に認定され、今年から本格販売を開始しております。以下に新品種「SBA9801」の特性を紹介いたします。

「SBA9801」の特性

1. 越冬性と永続性が優れ、全道で安定して栽培することが可能です。

「SBA9801」は当社北海道研究農場(長沼町)と長沼町よりも越冬条件が厳しい十勝の芽室町で選抜されました。そのため、多雪地域だけでなく、道東地域における適応性も優れております。図1に道内各試験場で行われた品種選定試験の収量成績を示しました。育種

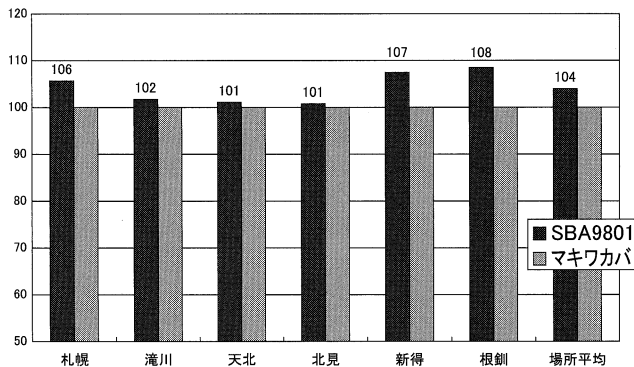


図1. 2カ年合計乾物収量比(品種選定試験、2003—2004年)

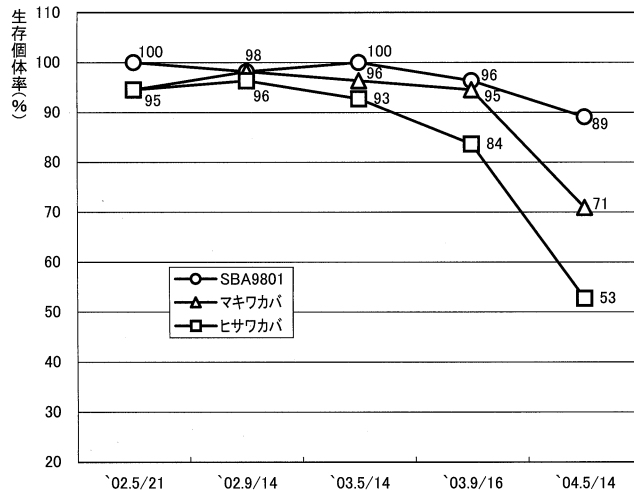


図2. 生存個体率の推移(年.月/日)

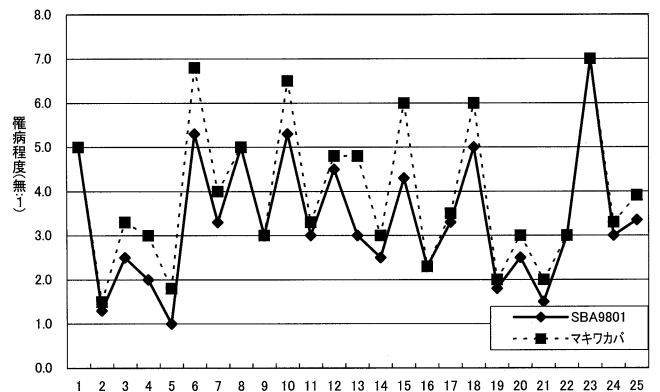


図3. そばかす病罹病程度
(道内各試験場において発生が認められた時の調査値)

表1. パーティシリウム萎凋病に対する抵抗性個体率

品種系統	抵抗性個体率(%)
SBA9801	83.5
マキワカバ	81.3
パートス(抵抗性強)	84.2
キタワカバ(抵抗性中)	59.5
ソア(抵抗性弱)	41.6

場所を反映したためか、札幌のほかに新得や根釧など道東地域での収量成績が優れております。

図2は当社北海道研究農場で行った個体植え試験における生存個体率の推移です。アルファルファの永続性には雪腐病が大きく影響し、特に造成3年目から発生が多くなると言われておりますが、本試験においてもその傾向がみられ、3年目(2003年)から雪腐病による株の消失が確認されるようになりました。4年目(2004年)の春には株の消失が更に多くなりましたが、その中で「SBA9801」の生存個体率は高く、他の品種との明らかな差が確認できました。

2. パーティシリウム萎凋病抵抗性とそばかす病抵抗性が優れます。

パーティシリウム萎凋病に対しては、幼苗選抜のほかに、数世代の圃場選抜によって、高い抵抗性が付与されております(表1)。

「SBA9801」の特徴の一つとして、そばかす病抵抗性が優れていることが挙げられます(図3)。そばかす病は北海道における重要病害の一つであり、特に冷涼多湿、痩せた土壌で秋に多く発生し、罹病すると、葉にそばかす状の黒褐色斑点が生じ、黄化後、落葉します。罹病すると減収するだけでなく、秋の刈り取り危険帯(9月下旬~10月上旬)と発生時期が重なることが多いため、光合成および炭水化物の蓄積が阻害され、越冬性が不良になります。(北研 谷津)

雪印種苗株式会社

編集発行人 城座 勝明
本社004-8531札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号

TEL (011)891-5911
FAX (011)891-5774